

学校法人第一学園
平成 26 年度自己評価 報告書

平成 27 年 5 月 31 日
第一学園 理事長 伊藤 博士

学校教育法第 42 条にもとづき、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園における平成 26 年度自己評価を次の分類により実施した。

(1) 教師用評価項目（全 60 項目）の分類

- ①教育計画・指導
- ②安全・衛生管理
- ③教師の資質・良識
- ④保護者・地域との連携、対応
- ⑤資質向上の取組

(2) 園長用評価項目（全 78 項目）の分類

- ①教育内容
- ②地域の幼児教育センターとしての役割
- ③安全管理
- ④人事管理
- ⑤財務管理

平成 26 年度の自己評価のまとめとして、学校法人第一学園第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園の実情と評価の分析結果、今後の課題を別紙「自己評価公表シート」に記載する。

学校法人 第一学園（平成 26 年度） 自己評価公表シート

第一学園 理事長 伊藤 博士

はじめに

学校法人 第一学園 第一幼稚園、第二幼稚園、杉並台幼稚園、合志こども園、杉並台保育園における自己評価シートをもとに、現状における本学園の実情を分析した結果、概ね以下の通りとなった。

【I】 本園の建学の精神、教育・保育理念、教育・保育目標

1 建学の精神

一人ひとりの幼児の姿を正しく見つめ、ただ一人の幼児の心をも悲しませない血の通った教育をする。

2 教育・保育理念

乳幼児期にふさわしい温かい環境の中で、科学的に裏付けられた教育・保育を実践することによって、教育・保育目標の実現を図る。

3 教育・保育目標

自己肯定感を持って自立し、他者との調和の中に、力強く自己実現できる人間を育成する。

【II】 平成 26 年度の重要な目標

- 1 「しせい教育」の理念の下、家庭、地域との密接な連携を大切に、日々の教育・保育実践の充実を図る。
- 2 これまでの自己評価を踏まえ、各人が「自園」と「自身」を再度振り返り、検証し、より一層の「自己充実」を図る。
- 3 質の高い教育・保育機関として高度の客観的評価に耐えうるよう、職員の研修体制をさらに充実すると共に、優秀な人材の採用にも積極的に取り組む。

【III】 平成 26 年度自己評価に関する取り組み方針

各人が、自己の教育・保育活動を「説明責任の視点」から見直し、より一層、教育・保育の質を高めるとともに、今回の評価によって更なる自己分析を行い今後取り組むべき課題を明らかにする。

評価結果より現状を分析し、分野毎に表にまとめると以下となる。

評価分野	自己分析
教育計画	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を踏まえ、当学園の「教育・保育理念」「教育・保育目標」にしたがった教育・保育課程に基づき作成された個別の「成長計画（教育・保育計画）」は、年間成長計画や短期の成長計画をベースとしてその充実を図っている。
教育の実施と指導	十分に検討された「成長計画」に基づき、重要な環境、共に育つ存在として、自己充実を図っている教師・保育士による、生き生きとした、

	<p>かつきめ細やかな教育・保育体制が充実している。これからも、科学性の理念に基づき、日々「研究」「実践」「検証」の過程を大切により一層の充実を図ることとする。</p> <p>「特別支援教育」については、幼児一人一人のニーズに合った支援を行っており、その効果は大きなものがあると考えている。</p> <p>責任ある実践には、優秀な人材の確保の困難性、財政的負担の大きさ等の問題も大きいですが、公益性の見地からきわめて重要な課題であり、学園全体で最大限の努力を続ける。</p>
地域・家庭との連携と支援	<p>十分な幼児教育・保育実践の為には、家庭との「教育・保育理念」、「情報」の共有は不可欠であり、保護者との連携は当学園でも重要な教育・保育実践の柱の一つである。今後も、相互の情報提供をより密にし、保護者会組織の支援等も頂きながら園児の成長の基盤強化を図る。</p> <p>園の公益性の見地から、地域とのつながりは極めて重要であり、地域の子育て支援センターの自覚を持って、在園児以外の子育て支援にも一層努力する。</p>
安全・衛生管理	<p>日常における安全・衛生管理には十分に注意を払っている。</p> <p>これまでも、「AEDの設置」「空気清浄機の設置」等のハード面はもちろん、ソフト面でもハザードマップの有効活用、各種訓練を実施し意識、技能の向上を図って来ていたが、本年度より「監視カメラ」の導入も開始した。</p> <p>外部からの不審者の侵入自体への適確な対抗手段は難しい問題であるが、男性職員の見回り等でも対応している。</p> <p>安全・衛生に関しては、最も優先すべき課題として、今後とも出来る限りの充実を図ることとする。</p>
人材確保・育成及び労務管理	<p>採用については、人権に配慮するとともに、公平・公正を期している。</p> <p>本年度も、当学園の「教育理念」に賛同した優秀な人材が応募してくれており、人材確保に不足はない。</p> <p>意欲ある職員による、積極的な「外部研修」への参加、「園内研修」の開催と参加等により多くの成果を生み出してきている。</p> <p>労務管理においては、理事会の方針を踏まえ、就業規則をはじめ、種々の規定を整備して法改正にも対応しており特段の問題は生じていない。</p> <p>人事に関しては、できる限り、各職員の意向を重視して対応しており、意欲ある活動につながっていると考えている。</p> <p>今後も、充実した教育・保育の実践の為の職場環境の一層の改善、活性化を全員で考え実行している。</p>
財務管理	<p>財務管理は法人運営上最も重要な位置を占めている。毎年度必要書類</p>

と法人管 理	を作成して公認会計士の監査を経るとともに、年 2 回の法人役員会の中で協議決定されている。 将来に備えた財政基盤の充実、日常運営資金の確保には充分配慮しており特に問題はない。 運営に関しては、「理事会」・「評議員会」は勿論、毎月の「運営会議」「事務会議」により適切な運営を図っている。
-----------	--

[IV] 今後の課題と取り組み

自己評価の結果を、平成 27 年度における本学園の運営に活用していくこととする。